広報のあさひ
No.259
53/5
昭和42年5月21日第3種郵便物認可

## 生まれかわったふるさとの祭り

「ワッショイ！ワッショイ！」のかけ声も勇ましく、ピカピカのみこしが高く上がります。晴れやかなはっぴ姿で『少年はやし隊』も、力いっぱい笛をかなでます。みんなの力で村づくりの楽しい広場を——と、地区民が総出でとりくんできた新しい豊龍神社祭典が実現。五月三日かってない人出と大きな盛り上がりのなかで賑かにくりひろげられました。この祭りには、みんなの熱意と若者の汗の結晶が大きく光っているのです。

### 今月の内容

期待大きい農協の役割……2
町政ニュース……6
カメラルポ
はたちの春は故郷で……8
みんなの教育
見なおされた村まつり……10
町民のひろば……12

# 期待大きい農協の役割

## 農家本位の指導強化を

**農家の大きな期待を担って誕生した合併農協。農産物の輸入拡大や米の生産調整、特用作物の栽培面積の制約など、きびしい農業情勢の中で、すでに三年を経過しました。この間に、組織の強化をはじめ営農指導体制の確立、経営近代化施設の整備など強力な農協めざして基盤づくりがすすめられてきています。そこで今月は、合併三年の農協の課題についてみんなで考えてみたいと思います。**

### 施設の整備はすすんだが

昭和五十年四月、多くの困難をのりこえて、町内三農協の合併が実現しました。そこには、めまぐるしく変わる農業情勢に対する不安とともに、それに対応できる農協の強いリーダーシップに大きな期待が寄せられていたことがうかがわれます。

合併によって、まず農業基盤の確立に重点がおかれ、二次構の完成と施設設備の整備がすすめられました。二次構、団体営によるほ場の整備や果樹園の造成をはじめ、大規模選果場、育苗施設、籾乾燥施設、ぶどう第一次加工施設といった施設の建設、コンバインやトラクター、防除機等大型機械の導入など農業の振興に欠かせない事業へのとりくみが次々となされました。

たしかに、合併後の農協のあゆみをみてみますと、その果たす役割ははかり知れない大きなものがあります。反面、組織のマンモス化にともなういろいろな問題も提起されており、組合員の不満や農協離れなど一部にあることも事実です。

昨年農協で、組合員を対象にした「農業経営意向調査」が行われ、農家は農業の将来に何を求め、どのような経営をめざすのか、また農協の運営に対してどう受けとめているのかといったことが明らかにされました。

この内容をみてみますと、まず現在の経営規模については、下の表の通りですが、約六割が九〇㌃以下といった状況になっています。

また、大きな課題である農業後継者については、〝いる〟と答えた人が三一・九㌫で〝将来いる〟と答えた農家と合わせて約四三㌫が後継者を確保しているという結果が出ています。しかし〝どうなるかわからない〟〝いない〟が五二㌫も占めており、多くの農家が将来の農業経営に不安を抱いていることがうかがわれます。

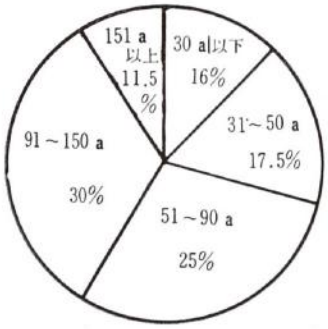
農協の運営面に対する要望については、生産技術指導と経営指導両面の強化を求める人が六一㌫と多く、ついで生産技術指導二〇・八㌫、生産団体など組織の育成が七・八㌫、となっています。

さらにその手段、方法については、集団指導が望ましいと答えた人が三六㌫、相談所の開設が二五・九㌫、個人指導が二三・七㌫となっており、農家の相談相手として営農指導面に力を入れてほしいといった傾向が強いようです。

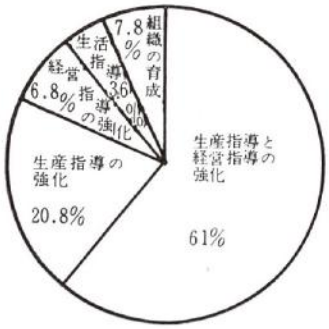
### みんなが利用できる農協へ

こうした「意向調査」の共通課題をもとに、昨年地域営農改善計画が策定され、十年後の農家所得目標を八百万円とした各地域ごとの農業経営の方向づけがなされましたところで、これまでの

●現在の経営規模




●営農指導への希望




●営農指導の方法

## 明日の郷土を考える

農協の運営や事業へのとりくみに対し農家はどのようなうけとめ方をしているのでしょうか。

はじめに、大舟木の鈴木庄司さん（写真・58歳）にお話をうかがってみました。

**鈴木**「合併によって、たしかに今までとりくめなかった事業や大型施設の整備など経営の合理化、近代化がすすめられ一応評価できると思っています。

しかし反面、それによって地域の格差が目立ってきたということも事実です。大型機械や施設設備を利用できる農家はどんどん経営の改善もできますが、山間部で条件の悪い農地をもっている小規模農家は、利用もできずにただ手をこまねいて見ているしかありません。

今までは、合併農協の体制づくりということでがまんもしてきましたが、問題はこれからだと思うんです。このままでは、農協は一部の組合員のみの農協になってしまうし、かけ離れた存在になってしまいます。やはり地域営農改善計画にもうたわれているように部落の中に入り、地域の課題解決のための具体化こそ急ぐ必要があると思いますね——先日の総代会に出席されて感じられたことは？

**鈴木**「組織が大きくなったことで、経営内容が非常にわかりにくくなったということです。

部落座談会など農家の理解と協力を得られるような手だてをとるべきです。

事業計画を見ても、我々が直接とりくんで利用できるものはほとんど見当りませんし、農協の収益性が高い共済や購買事業など農家への押しつけばかりがどうしても目立ってしまいますただ我々農家自体も、いつまでも出稼ぎや他力本願的な姿勢ではなく、この地域でやれるものは何か、どのように農協を利用していくのかといったことを真剣に考え盛り上げていく必要があると思っています。」

鈴木さんは、これからの課題として、山間部など地域に応じたきめ細かな指導と、農家自身の農業経営に対する真剣なとりくみが必要だといわれています

## もっとほしい 職員とのふれあい

つぎに、農家の主婦の立場から送橋の相座 薫さん（写真）にうかがってみました。

——送橋地区は、農協の生活改善モデル地区の指定をうけ、活発な活動をすすめられてきたそうですが、いかがでしょうか。

**相座**「営農部の事業として、生活改良普及所の先生方や生活指導員が講師になって実習中心に行われたわけですが、成果は大きなものがあったと思います。

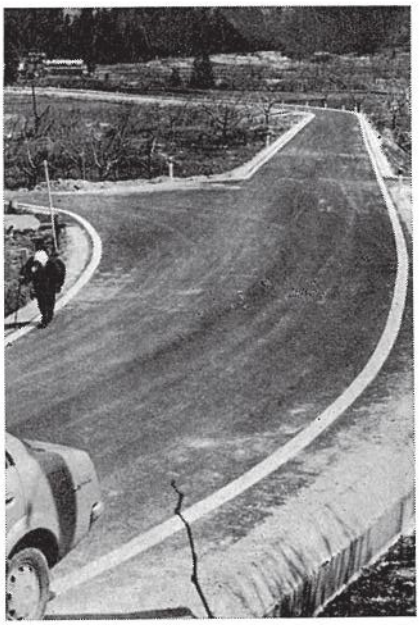
内容は①農繁期の献立（料理実習）②農産物の加工のしかた③農薬農器具の危険防止と使い方④健康教室（成人病など）⑤衣類の廃物利用⑥合成革バックの作り方⑦食品添加物の知識、といったもので私たちの生活に直接必要なものばかりです。

農閑期や昼休みを利用しての活動だったわけですが、農協でも真剣にとりくんでくれ部落の婦人会活動が大きく盛り上がりました。やはり生活を少しでも充実したものにするためには、私たち農村に住む主婦自身が意識を変え、自ら求めていく姿勢をもつことだと思いますね。」

——農業を営む上でも、生活の合理化をすすめる意味において主婦の役割は大きなものが、あると思うんですが。

**相座**「その通りだと思います。どうしても農家の主婦は、仕事は父ちゃんまかせで農薬や農機具の取り扱いにもあまり慣れていません。農薬などの事故を防ぐ上でもある程度の管理の仕方とか安全な操作のやり方を知っておく必要があると思うんですあと一つは、農家の台所を守る立場として、いつまでたってもドンブリ勘定では生活の合理化など望めませんし、記帳生活を推進することが大切ですのでそうした面への指導も、ぜひ充実してほしい気がします。

とにかく農協が大型化したために、今までなかった分野の事や業人間の交流が活発に行われるようになったことは喜こばしいことです。ただ、昔のような職員とのふれあいが少くなり気軽に行きにくくなったことも事実ですので、もっと畑や家の中に入って人間的なつながりを深めていってほしいと思いますね。」



農道の整備もすすんでいる（玉の井）

## 系統機関の一本化が課題

それではつぎに、大谷七の堀敏男さん（写真・34歳）にうかがってみたいと思います。

――農協では昨年「地域営農改善計画」をつくり、農業経営に対する明確な方向づけをしているようですが、この内容についてどう思いますか。

**堀**「組合員の意向調査をして積み上げただけに、地域ごとの特性を生かした方向づけがなされていると思います。農協として水稲、果樹、特用作物、畜産の四つを重点拡大作物に定め、この推進をはかる手段としていろいろあげていますが、最上町でやっているように町と農協と普及所が一体となった、営農指導対策室のような体制づくりが必要だと思います。

若い後継者たちもかなり期待を寄せていますが、この対策にもふれられていませんし計画をどう具体化していくのかといった、もう一歩つっこんだ内容が明らかにされていないのは残念です。」

――農協の事業推進体制についてはどうでしょうか。

**堀**「生産資材や肥料などは決して安いとはいえませんし、農機具の方は価格は安くてもアフターサービスの面で低下しているのを感じます。

販売体制でもそうですがとくに農協の上にあぐらをかいている系統機関はどうにかならないのだろうか。単農協のみ合併して経営の合理化をはかっても、上部組織が互いにナワ張りをはって一体化していない状況では末端の組合員が結局損をするということになってしまいます。

あともう一つは、役員の改選が行われ新理事が誘生したわけですが、役員と組合員との定期協議が必要だと思いますね。マンモス化したことにより、組合員の意向が農協経営に反映されにくくなったことは確かです。そして私たちも他人まかせでなく、自分たちの農協だという気持ちで利用方法を考えていかなければと思っています。」

## 購買事業は生活を守るため

これまで三人の農家の方々にうかがってみましたが、ここで商業の立場から大町の鈴木弘義さん（写真・35歳）にお話をうかがってみたいと思います。

**鈴木**「朝日町は農業が主体の町ですので、農協の果たす役割は大きなものがあることは当然ですが、エスカレートする購買活動に小売店も大きな打撃をうけています。地元小売店としても農協に負けないようなサービス体制をつくっていかなければなりませんが、こう大型化し総合商社のような組織になると、とてもたちうちできないのが現状です。

合併後今まで以上に購買活動に力を入れてますが、考えなければならないのは本当に組合員の生活を守るためにそこまで必要なのかどうかということです購売事業は収益性が高く農協を維持していくためにはやむを得ないものがありますが、経営主義に走るやり方ではなくあくまでも農協本来の使命に帰って事業をすすめることが大切だと思うんです。

一昨年、農協の代表と商工業関係者が町をはさんで話し合いをしたわけですが、お互いに利害相反するものがあり話がかみ合わなかったようです。しかしただいがみあっているばかりではなく、マサツを少しでも小さくするための話し合いは続けるべきだと思いますね。」

## ■農協の新役員決まる

農協の新役員に次の方々が無投票で当選され，またこのほど開かれた理事会の席上，布施芳太郎さんが新しい組合長に選ばれました。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 組合長理事 | 布施芳太郎 | （栄町） | 新 |
| 理　事 | 相座　孝太 | （太郎） | 再 |
| 〃 | 佐竹　房吉 | （八ツ沼） | 〃 |
| 〃 | 長岡　玉治 | （曲淵） | 新 |
| 〃 | 布施五郎左衛門 | （松程） | 再 |
| 〃 | 海野　久司 | （長沼） | 新 |
| 〃 | 長岡　泰一 | （宇津野） | 〃 |
| 〃 | 菅井　昭一 | （大隅） | 再 |
| 〃 | 富樫　善一 | （元町） | 新 |
| 〃 | 區崎三右エ門 | （水本） | 再 |
| 〃 | 五十嵐清之助 | （中沢） | 〃 |
| 〃 | 大谷　啓 | （大谷一） | 新 |
| 〃 | 白田　安蔵 | （〃二） | 〃 |
| 〃 | 小林　馨 | （大沼） | 再 |
| 〃 | 遠藤　政勝 | （栗木沢） | 新 |
| 監　事 | 長岡与四夫 | （常盤） | 〃 |
| 〃 | 豊嶋　武麿 | （本町） | 再 |
| 〃 | 遠藤　祐吉 | （舟渡） | 新 |

# 指導体制の充実はかる

合併された農協に対する意見や要望など、それぞれの立場からお話いただきましたが、ここで新しく組合長になられた布施芳太郎さん（写真）にいろいろうかがってみたいと思います。

――合併後三年を経過したわけですが、これからの課題についてお話し下さい。

**布施**「三年を経過したから、農協は軌道にのったといった考えではなく、三年間の反省の上にたって、一つ一つの問題点を洗い直しながら着実に足元を固めていく考えです。」

――営農指導面の強化を望む人が多いようですが。

**布施**「まず、農家自身が自分の経営状態をきちんと把握して、どう改善するのかを真剣に考えていくことが基本ですが、農協としてはこの対策として、経営指導員を配置して、各農家をまわり相談に応じる体制を整えていきたいと思っています。

しかし果樹などの生産技術については、普及所や農協職員以上のキャリアと技術をもつ農家の方がたくさんいるわけですので、協力してもらいながら充実をはかりたい方針です。そうした技術をもつ農家を増やしていくことが本来の営農部の仕事ですし、農家も何でも農協におんぶしていけばいいといった姿勢でなく、技術の向上めざして研究努力していくことが大切です。

また、生活指導面については普及所の協力を得て、地みちに指導員が各部落をまわり成果をあげているようです。

やはり、農家の主婦は、家族の健康管理や生活の合理化など農業をサイドから支える大切な役割をもっていますので、この生活指導にも力を入れなければなりません。

とくに簡易な農薬のとりあつかいや家庭菜園芸など、自分の手でできる範囲で生活を見直す運動をすすめていきたいと考えています。」

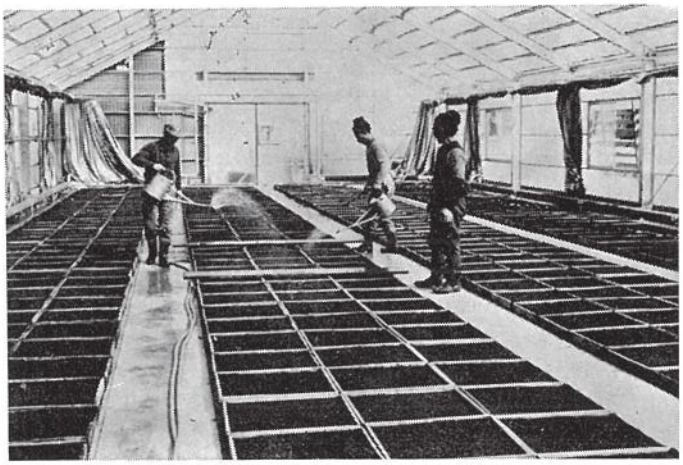
――地域営農改善計画の具体化をどうすすめるお考えですか。

**布施**「現在のところ十本木、長根、川通、大谷、宮宿など、果樹園の造成や畜産団地に意欲的にとりくんでいる地域にとびこみ、町とも連けいをとりながら農家の相談相手になっているところです。

計画の実施に当っては農協のみでも不可能ですし、生産組織や町など関係者と協議を重ね、農家の意向を尊重しながらすすめたい考えです。

また、農協の事業推進については、いろいろ不満もあると思いますが、生産資材や農家の需要に応じた生活用品など、より安くより有利な条件のもとに供給することが課題です。これは農協の事業の中でもかなりのウエイトを占めるわけですが、設備投資をして維持管理をしていくためには、ぜひとも必要な分野ですのでご理解とご協力を賜りたいと思います。」

今月は、合併農協の役割について、町民や関係者の声を中心にとりあげてみました。ここで出された問題の多くは農家や農協のみで解決できるものではありませんし、私達がどうすればより豊かな農村社会をつくることができるのか真剣に考えてみる必要があるようです。



このほど完成したタバコ育苗施設

## でんわ情報

### 上手なかけ方　七つのポイント

**●まず電話番号を確かめて**
番号を確かめずに、ウロ覚えでダイヤルするのは、まちがい電話のもとです。

**●用件は前もって整理して**
ダイヤルしてから話すことを考えるのは非能率、かける前に話す順序をまとめましょう

**●ダイヤルは指止めまで正確に**
「ツー」という音を聞き、指止めまで正確に回し、自然に離すことです。

**●電話にイライラ、セッカチは禁物**
呼出音は四～五回で切らずに十回程度は聞きましょう。

**●相手の都合を聞いてから**
相手が忙がしい気配がしたら、許しを得て話すのがエチケットです。

**●相手が目の前にいる気持で**
行儀の悪い格好や態度は、そのまま先方に伝わるものです

**●途中で切れたら**
万一切れた場合は、かけた方からかけ直し、受けた方はしばらく待つのがルールです

# 高齢者生産活動センターに着工

## ふろは太陽熱で

いま、石田淵地内ではたくましいブルの響きが山あいにこだましています。

このほど、国より正式にセンター建設の補助内示があり、約九千平方㍍の敷地造成工事と暗きょ排水工事がすすめられています。

このセンターは今までもご紹介しているように、おとしよりが余暇を利用してそれぞれの趣味に応じた仕事を行い、生きがいを高めると同時に実益を得ようとするもので今年度東北で二か所選ばれています。

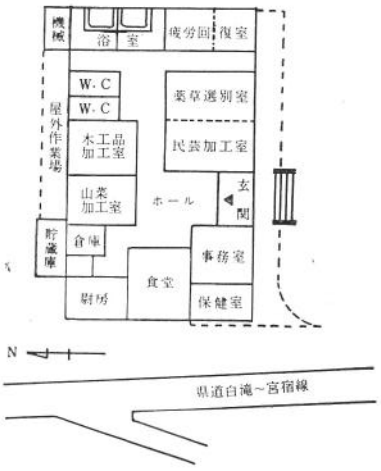
施設の内容は、鉄筋コンクリート平屋建てで建築面積が約八百三十平方㍍。山菜や民芸品、木工品の加工室などの作業棟のほか、全国のモデル的な太陽熱を利用した浴室や集会室、調理室、休養室といったものもつくられる計画です。

とくに、ふろや暖房には〝ソーラーハウス〟という、屋根に集熱板を並べて太陽熱を吸収する装置を導入することにしています。

このほか、汚水処理には〝土壌式浄化槽〟をとり入れ、公害のない清潔な環境をつくるよう配慮をしているのも特徴です。

事業費は一億二千万円、七五㌫の国・県補助があり二か年継続工事で、間もなく温泉試掘のボーリングに着工、早ければ来年六月頃にはオープンしたい方針です。

いま①花木②民芸③薬草④山菜加工⑤木工加工⑥養魚、の各生産グループの組織づくりをすすめていますが、ゆっくりとくつろぎながら趣味を生かし、生きがいを高めるという多目的な活動の場として、大きな期待が寄せられています。




# 待望の農村公園が完成

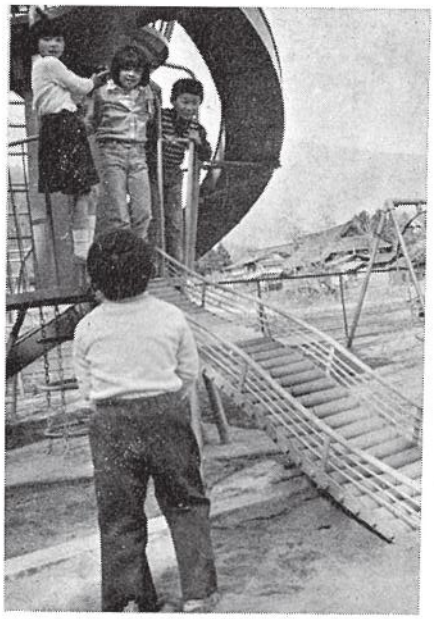
## 夏草で開園式

農村総合整備モデル事業で工事がすすめられていた、夏草地区農村公園がこのほど完成、四月十七日に区民あげて開園式が催されました。

この公園は、公民館の向かい側に総工費四百七十万円でつくられたもので面積が七百平方㍍。周囲には八重桜やしらかば、どうたんつつじなど約五十本の木が植えられ、コンビネーション遊具や、わいわいブランコ、乗馬シーソーなどの遊具も整備されています。

そのほか、砂場、庭園灯、水のみ場、簡易トイレも完備されており、軽スポーツや盆おどりもできる広場がつくられています。

開園式には、鈴木助役が出席して、「みなさんの力で本当にりっぱな公園ができました。明るい部落づくりの広場として、大いに利用して下さい」とあいさつ。地区の子どもたちもさっそく集まって、歓声をあげてはしゃぎ回っていました。



# 今年度の新しい区長決まる

## ……区長会長に武田氏再選

役場と町民とのパイプ役として、重要な役割を担っている各部落の区長さんが、つぎのように決まりました。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 連合区長会長 | 武田　忠雄 | 再 | |
| 中部 | 〃 | 新宿 | 熊谷小次郎（再） |
| 西部 | 〃 | 四ノ沢 | 石塚　芳雄（新） |
| 北部 | 〃 | 小原 | 菅井　善蔵（〃） |
| | 村山政太郎 | 〃 | 宿　佐藤　平吉（〃） |
| **部落** | **氏名** | **新任再任** | 沼向 | 菅井孝三郎（再） |
| 本町 | 今野不二雄 | （再） | 大隅 | 菅井　肇夫（〃） |
| 西町 | 武田　忠雄 | （〃） | 平 | 佐藤与右エ門（〃） |
| 栄町 | 安達　寅太 | （〃） | 古槇 | 清野　克巳（新） |
| 助ノ巻 | 鈴木　貞蔵 | （〃） | 送橋 | 相座　正明（〃） |
| 大町 | 海野富太郎 | （新） | 下芦沢 | 大滝権太郎（再） |
| 元町 | 鈴木　隆治 | （再） | 水本 | 岡崎三右エ門（新） |
| 西原 | 阿部　鶴雄 | （〃） | 杉山 | 花山　伝夫（再） |
| 前田沢 | 成原七太郎 | （〃） | 松原 | 長岡　正司（新） |
| | | | 宇津野 | 佐竹　恒男（再） |
| | | | 大滝 | 柴田　鶴吉（新） |
| | | | 雪谷 | 鈴木　博（再） |
| | | | 常盤 | 長岡　源（〃） |
| | | | 夏草 | 斎藤　八蔵（再） |
| | | | 長沼 | 海野　久司（新） |
| | | | 西舟渡 | 小関　長寿（再） |
| | | | 八ツ沼 | 佐竹　房吉（〃） |
| | | | 能中 | 志藤喜司雄（〃） |
| | | | 高田 | 長岡　幸助（〃） |
| | | | 太郎一 | 長岡　茂一（新） |
| | | | 太郎二 | 相座　孝太（再） |
| | | | 太郎三 | 長岡　玉治（新） |
| | | | 石須部 | 長岡重次郎（再） |
| | | | 立木 | 阿部惣五郎（〃） |
| | | | 白倉 | 阿部　勝蔵（〃） |
| | | | 松程 | 阿部　勝志（新） |
| | | | 大舟木 | 鈴木　吾郎（再） |
| | | | 今平 | 鈴木亦四郎（〃） |
| | | | 大谷一 | 白田　要治（〃） |
| | | | 大谷二 | 白田　栄（〃） |
| | | | 大谷三 | 高木　高一（〃） |
| | | | 大谷四 | 田村　雅雄（〃） |
| | | | 大谷五 | 白田　辰雄（〃） |
| | | | 大谷六 | 小野長一郎（〃） |
| | | | 大谷七 | 村山政太郎（〃） |
| | | | 中沢五十嵐六郎兵エ | （新） |
| | | | 真中 | 庄田　正雄（〃） |
| | | | 舟渡 | 遠藤　祐吉（〃） |
| | | | 栗木沢 | 遠藤　善蔵（再） |
| | | | 川通 | 志藤　滋男（新） |
| | | | 大暮山 | 阿部三之亟（再） |
| | | | 大沼 | 小林　岩男（〃） |

# 新広報委員が誕生

☆ ……

## 委員長に多田秀雄氏

町づくりの課題や町民の声を積極的にとりあげ，親しまれる広報紙づくりとりくんでいる町広報委員の改選がこのほど行われ，新しい委員が誕生しました。4月28日に開かれた第1回広報委員会では，各委員に委嘱状が手渡されたあと，永年広報活動にとりくんでこられ，このたび退職された白田辰雄さん（大谷五・12年）と大野孝さん（和合・6年）に表彰状が贈られました。

また，委員長には本町の多田秀雄氏が再選され，新たに6名の編集委員も改選されました。

■委員は次の方々です。

委員長多田秀雄（本町）副委員長堀重雄（元町）〃阿部勉（企画課長）編集委員長岡幸助（高田）〃清野正男（古槇）〃遠藤清蔵（西小）〃川嶋祇子（本町）〃安藤茂雄（上郷）〃五十嵐平一郎（中　沢）委員浅井重弥（本町）斎藤聖司（農協）菅井正人（〃）片桐隆（朝日中）大井寿一（曲淵）飯田重憲（商工会）堀茂（舟渡）鈴木かつ子（松程）阿部玲子（大谷六）阿部為吉（常盤）成原明美（西町）宮本建一（以下役場）清野正幸，成原孝一，菅井和広，大井守，佐藤伸寛，菊地洋一　<事務局>阿部美喜男，長岡重利

## 広報写真が全国入選

また，このほど開かれた昭和52年度全国広報コンクールの「広報写真の部」で，朝日町が入選一席に選ばれました。

この作品は，部落づくりに真剣にとりくむ部落の役員と町スタッフの姿をとらえたもので，先の県広報コンクールで特選になり，出品されていたものです。

広報委員会ではこの受賞を機会に，より充実した親しまれる広報紙づくりに，とりくんでいくことを確認し合いました。

# 議会ニュース

さる四月二十四日第三回臨時町議会が紹集され，次の議案が承認可決されました。

◆昭和五十二年度町一般会計予算第三号で定めた地方債の限度額の変更についての専決処分の承認について

◆町税条例の一部改正について　〃

◆町国民健康保険税条例の一部改正について　〃

◆町特別土地保有税審議会条例の設定について

◆朝日中学校グランド整備工事請負契約の締結について

◆昭和五十三年度町一般会計補正予算（第一号）

### ●議長が自治功労表彰

町発展のかなめとして、活発な議会活動を続けている町議会の鈴木幸次郎議長が、このほど県町村議長会より表彰をうけました。

これは、これまで十五年間にわたって議長の重責を担われてきたことに対する自治功労者表彰で、みんなで心から祝福したいものです。

## ◉141人が大人の仲間入り

30回目を迎えた成人式が，さる4月30日中央公民館で開催されました。ことしは，町内から88名，町外在住者53名の計141名（男子65名，女子76名）が参加，ふるさとでの成人を祝いあいました。

式典は，君が代斉唱のあと小林町長より式辞がのべられ，「二度とない青春時代を大切にし，社会的課題にとりくむ心の大きな人間に育ってほしい」と激励，来賓祝辞のあと成人者を代表して太郎の大高正守君から，力強く誓いのことばがのべられました。

また記念講演では，「青年の自主的活動と地域参加」をテーマに，山大教授の勝又猛氏から「社会の一員として地域にしっかりと根をおろし，青年としての役割を果たしていこう」といった話がありました。

自分たちの力で成人式を盛りあげようと，22名の実行委員たちも大ハリキリ。記念文集の発行や前夜祭，アトラクションを催すなど思い出に残る成人式となりました。

≪写真撮影・安藤茂雄広報委員≫

一生に一度の儀式――と朝早くから着物の着つけに大わらわ

# は ふるさとで

# 者迎え成人式

アトラクションも行われ，明るい歌声が場内いっぱいに

美しい晴着に花が咲いたよう

なつかしい友との出合いに話もはずみ，明るい談笑の輪が広がる

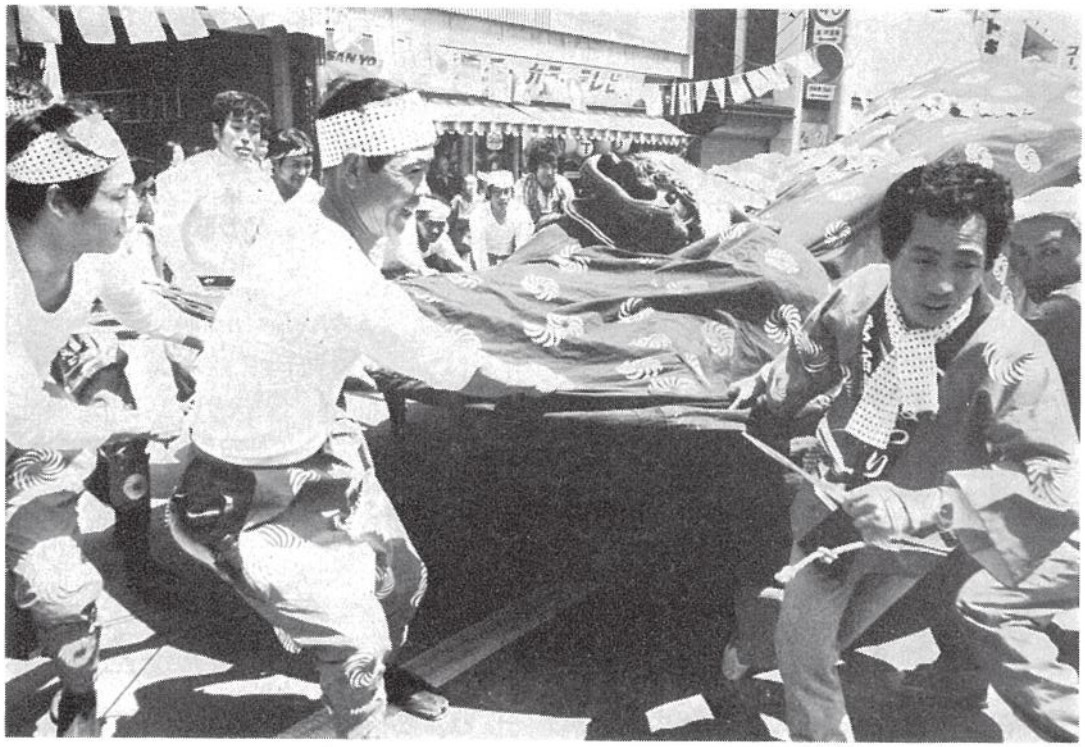
参加者からは郷土の担い手としての新たな決意がうかがえた

# はたちの春

カメラルポ

## Uターン

成功を期して何度も企画しあった実行委員たちに拍手が



みんなの教育

# 見なおされた村祭り

## 村づくりの楽しい広場に

**ふるさとの祭りの風情は、いつまでもなつかしく心の奥深く残るものです。どのように時代が変わっても、遠い祖先から引きつがれてきた祭りの心だけは、大きく大切に育てていきたいものです。今月は、地区民の力で装いも新たに生まれ変わった豊龍神社の祭典を通し、祭りの原点についてみんなで考えてみたいと思います。**

三月二十三日以後、宮宿公民館で宮宿五区内の中学一、二年生男女約五十名による豊龍神社獅子舞のはやし（笛鉦）の練習がはじまりました。夕方横笛からながれる「ピーヒョロヒョロ…」の音が町の一角にひびきわたります。このグループこそ「少年はやし隊」の諸君です。

いま、先祖から引きつがれた村の芸能が、若い世代に引きつがれ、若者が身をもって村祭りに参加する体制が整えられたのです。村祭りの風情に一段の活気をそえ、若者の脳裡に深くふるさとの香りとにおいがしみこむことでしょう。

### ■たちあがった　地区民

先輩の奉仕の精神と努力によって受けつがれてきた村祭りの行事を、とぎれることなく正しい姿で後世に伝承しようじゃないか。地区民総参加を旗印にみんな参加出来る賑かな楽しいお祭りを作ろう。後継者の育成を考えよう。みんなが参加し楽しい賑かな村祭りの再現こそ、活気あふれる明るい地域作りに結びつくものでなかろうか。と特に青年層が盛りあがりました。

### ■祭典づくりのしくみ

**一、祭典検討委員会の結成**

地区民代表一二六名による検討委員が委嘱され、祭りのあり方、しくみ、催しもの、衣裳のこと、祭典日の変更のこと、経費のことなどが自由にしかも活発に話し合われました。地区民の考えも十分に吸収し構想を練り、また地区民の意見を求めました。

その結果　①五月三日に祭典日を変えよう。そしてみんなが気楽に参加も出来、見物もされる祭典日にしよう。②祭典をもりあげるため催しものを考えよう。③衣裳をととのえよう。④小・中学生の行事参加を考えよう。⑤祭りの雰囲気をたかめるために前夜祭を実施しよう、と

いったことが確認されました。この考えに宮司氏子総代の方も心から賛意を表され、区民総意による方向づけがなされ、五区の会議においても充分検討の結果答申どおりの決定をみたのです。

**二、祭典実行委員会への移行**

決定された事柄を実行に移すための組織で、三十三名の代表で構成されました。①祭典日を五月三日とする。②祭典行事は従来の獅子舞のほかに、みこし行列、稚児行列を加え、前夜祭を実施する。③衣裳を新調整備すると共にみこし、小獅子一基を購入する。④経費は約三百万円とし、地区民の奉加による寄附金とするとの決定された計画によって実行にふみきりました。

何しろ祭典の大改革です。決定された行事、即ち獅子舞、みこし行列、稚児行列に直接参加奉仕する人数も一般区民約百名小・中学生約二百名の大部隊です。

そして祭典用具の新調購入、小・中学校への児童生徒参加についての協力依頼、父兄への了解と児童・生徒への事故防止、安全対策の検討、区民に対して祭典改革の趣旨の徹底の寄附依頼、生徒の練習日程と指導協力体制をつくるなど、山積された広範囲の仕事を落度なく能率的に進めるために、祭典実行委員会々則をつくり、会長のもと専門部を設け仕事の分担制をとりました。庶務、会計、獅子舞、みこし衣裳前夜祭の六部です。

なお獅子舞部、みこし部については指導員二十一名を委嘱、実技の指導を担当し、衣裳部、前夜祭部には協力員を十四名委嘱、協力をお願する組織を作りました。そして、児童生徒の全面的な参加のため校外生活の補導を担当して下さっている子供会育成員全員の協力もお願いしました。名実共に総参加による村祭り体制が着々とできあがったのです。

## 少年はやし隊の結成

村祭りの行事に児童生徒が参加することについては、小・中学校の両校長先生共に心から賛意を表され「どうぞしっかりやらせて下さい」との、激励までいただきました。

中学生一、二年男女全員を獅子舞の「はやし」を担当してもらおう。そして先輩から継承された笛の音を正しく修得し、理解してもらわねばならない。横笛の演奏はなかなかむづかしい果たして出来るだろうか、いや生徒は音楽の学習もやっているから大丈夫だなど、全く半信半疑の下馬評でした。やってみようとの事で、笛の名手清野源太郎さんのかなでるメロデーを、今井孝一郎さんに採譜していただき練習をはじめました。しかし、この計画は生徒が面白半分遊び半分の参加ではならないし歴史的、文化的な村の遺産を受けつぐ歴史的使命を帯びたものです。そして参加の趣旨は、正しく後世に受けつぐ村の若者の大切な役目でもあることを自覚してほしい。自主的に中学生らしさの中で楽しくやりたいものだと、ここに「少年はやし隊」の結成をみたのです。総数五十二名の隊員の総意により、次の組織がつくられました。

隊　長　今野めぐみ
副隊長　成原正志　鈴木高光
　　近藤　武　若月信二

## みこし行列と稚児行列

小学四～六年男女全員八〇名のはっぴはじまき姿の「みこし行列」。ぴかぴか輝く新調のおみこしを「ワッショ、ワッショ」で街中をねり歩く元気な姿の実現。それに一層の賑かさと勝気をそえる豊龍太鼓。

本町商店街の積極的な協力によって、小学生一～三年男女七十名のあどけない、可愛らしさ一杯の雰囲気をかもす稚児行列の実施をみることが出来ました血まなこになって我が子我が孫を見まもるおばあさん、おかあさんの風景も見られ、子供と親の心のつながる風情が脳裡に残ります。

また、夜空に色どる打上げ花火、神前に護摩を行う行事、バンド演奏に浮きたつ青春、幼な心をひきつける賑かな夜店風景など、前夜祭部のユニークな実演も企画され、祭り気分をいっそうわきたたせました。

祭りは村作りの広場です。

うつくしいはっぴ姿で村祭りに参加奉仕する村人、ながれるはやしのにぎやかな音色、色とりどりの万国旗のたなびく街、雑念をわすれ、祭り一色に結びつく心境、賑かな環境、こんな日が一年の中に何日あるでしょうか。祭りの精神は神仏に対する感謝の念のあらわれであり、大自然の力（神）や祖先に対する敬けんな心の表現が祭りなのです。このなかには心のふれ合いを求め、助け合いの気持の大切なことをかみしめることができます。一区の行政のわくをはずし、老若男女が祭りに参加する。そして自分の役割に全力をつくしお互いに助け合った結晶が私達の念願してやまないすばらしい祭りを生み出したことを銘記すべきではないでしょうか

少年はやし隊も結成され祭りは大きく盛り上がった

# 町民のひろば

ご意見・話題をどしどしお寄せ下さい。
―広報係―

# 住みよい部落をどうつくる

## 活発に町政座談会

ことしの町政座談会は、四月二十五日夜の能中区をかわきりに町内の各部落で活発に開催されています。昨年は全部落を対象に開かれ、八百三十五人の方々が参加していますが、ことしは要望のあった二十二区で、膝を交えての対話がくり広げられています。

初日の能中区（志藤喜志雄区長）では、役場から小林町長、建設課長、企画課長らが出席、四十人あまり集った区民となごやかに話合われました。

はじめに町長から、ことしの町づくりの概要や事業の見通しなどが説明されたあと、区民から①主要地方道長井～大江線を早く完成してほしい②う回路の八ツ沼能中線の整備を早く③八ツ沼口のバス停に待ち合い所の設置を④朝日病院に産婦人科医を早く見つけてほしいなど、区でかかえている身近な課題や問題点について要望が出されました。

この中でとくに町長は、町にとっても大きな課題である長井～大江線の早期完成、八天橋の架橋促進などに全力をあげることを約束、区民の協力と盛り上がりを求めました。

座談会は六月はじめ頃まで開かれますが、これまで農繁期にもかかわらず大勢の参加者があり、率直な意見が目立ちました。

町では、こうして出された問題点や要望などをまとめ、一日も早く対処しながら町の施策に生かしていきたい考えです。

## 「嫁たちの手料理が自慢…」

### 立木で敬老会第1号

本音で語りあうために青年や若妻老人クラブなど各層との協議会をつくって、明るい部落づくりをめざしている立木で、このほど町のトップをきって敬老会が開かれました。

この日は、部落内の七十歳以上のおとしより三十人あまりが出席、町から住民課長も交えて楽しいひとときをすごしました。

とくに、婦人会では、区の先輩方にまごころからの手料理でおもてなし、おとしよりたちは「やっぱり嫁たちの手料理が一番……」と、すっかり満足していました。

また「もう少し公民館が広く設備が整っていれば…」というお母さんたちの声も聞かれましたが、一日も早く明るい公民館の建設をというのが、立木の大きな課題といえそうです。

（大井寿一広報委員）

## 用大橋が完成

### 喜びあふれ渡り初め

舟渡地区と隣町大江町用地区とを結ぶ「用大橋」がこのほど完成、四月二十二日に渡り初めが行われました。

用地区は、これまで百年以上にわたり渡し舟で通勤通学しており、架橋は長年の夢だっただけに地区民の喜びもひとしおといったようすでした。

舟渡の堀久蔵さん（前区長）も、架橋の推進に力を尽くされており、親子三代の渡り初めの儀式に参列。この日を祝って橋の両側にりっぱな杉の門をつくって寄贈するなど、用の地区民に心からよろこばれ、このたび感謝状も受けています。

「六年前までは、小・中学生は大谷に通っていたこともあって用地区とは兄弟村のように思っています。

これからも今まで以上に仲むつまじくやっていきたい」と語っていました。

なお、用橋は四年事業で建設され、延長が一八五㍍で巾員が六㍍、高さが約二五・五㍍となっています。

（五十嵐平一郎広報委員）

# 坐禅で精神の修養を

## ……「夜坐の会」が発足……

町内に精神修養の場を―との町民の要望にこたえて昨年十二月本町の福昌寺（鈴木秀芳住職）に坐禅堂が建てられ、このほど「夜坐の会」が発足しました。

これは忙がしい毎日の生活の中でじっくりと自己を見つめながら、ものごとの真実の姿を見極め、これに正しく対応できる心の働きを養おうと毎週日曜の夜に開かれているものです。

「夜坐の会」には、近所のおばあちゃんたちをはじめ、山間部や町外からも参加、十名をこす老若男女が集まり熱心に修業に励んでいます。

はじめは、足が痛くて組めなかったという参加者も今では四十分間位じっくりと禅を組んだあと、鈴木住職の法話に耳を傾け、明日への英気を養っていました

# この人紹介

## 『白衣は中学からのあこがれ』

## 佐竹浩子さん（八ツ沼）

三姉妹の二番目で朝日分校を卒業して県立高看学院へ。「姉がお嫁に行っちゃったからどこにも行くとこがなくなって帰ってきた」と笑う。あたたかい目がとても印象的だ

朝日病院では、内科病室を担当。「仕事をしていてつくづく自分の無力さを感じますねどんなに患者さんが苦しんでいても何もしてあげられないって……」健康の尊さ、生命の尊さを身にしみて感じるという。

趣味は手芸とスポーツ。ペーパーフラワーなどをつくるのが好きで、暇さえあれば手を動かしているという。

「私って何でも手をかけてみるんですけど、満足にできないんです」とひかえめ。友達とさわぐのが好きで、この町にも若い人が楽しめる場所があれば、と語る白衣の似合う〝天使〟さん。

「きっかけは叔母の影響かな？でも実際責任は大きいし大変だなあって思いますね」あこがれの看護婦になってのひとこと……。

# 菅井選手が区間優勝

## ……県縦断駅伝大会

県内十一チームが参加して開かれた、第22回県縦断駅伝大会は、さる四月二十八日から三日間にわたって熱戦がくりひろげられました。寒河江・西村山チームは九位にとどまりましたが二日目十五区（東根～天童）で和合の菅井正彦君が区間優勝するなど町出身選手の活躍が目立ちました。また、第一回大会から宮宿中継所で名解説を続け、大会を大きく盛りあげている堀重雄さん（元町・電報電話局）も出場？。汗まみれになっての名アナウンスに、わざわざ寒河江から聞きにきたというあるご婦人も大感激していました。

**町出身出場選手は次のとおり**

黒坂　光男（本町・教委）
今野　幸昭（西町・建設課）
阿部　弘美（長沼・水道）
佐藤　吉範（大舟木・農業）
菅井　正彦（和合・製材業）
斎藤　和彦（杉山・会社員）
菊地　俊英（松程・寒高）
小林　勝弥（大沼・〃）
五十嵐忠一（舟渡・朝日分）

# 火災予防はみんなの力で

## ……きびきびと春季消防演習

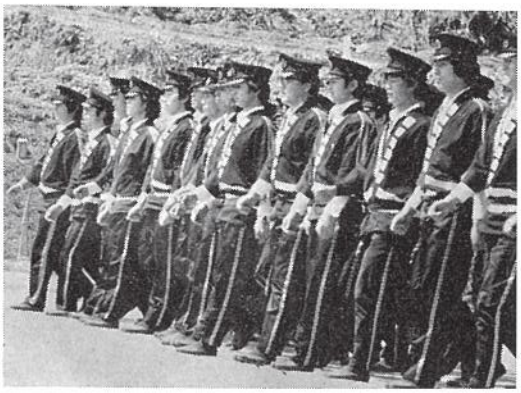
町内四百七十名の全団員が一堂に集まっての春季消防演習が四月二十七日、旧宮中グランドで行われました。

各団員とも朝早くから続々と出勤し、午前八時の演習開始宣言と同時に、観閲や人員服装の点検、機械器具の点検、模範操法、小隊・中隊訓練など整然と日頃の成果を披露しました。

とくに、一分団一部（宮宿）の小隊訓練は一糸乱れぬ見事なもので、参加者からさかんな拍手がおくられました。

また、宮宿中央通りでは本番さながらの模擬火災訓練も行われ、分列行進のあと役場前ピロティで表彰式が行われました。

表彰者は次のとおりです。



見事な小隊訓練で注目された一分団一部

**消防長官表彰**

元部長・斎藤吉衛　〃長岡誠治　〃長岡誠一　〃白田幸一
元団員・斎藤新一

**山形県知事表彰**

▽金条章　第二分団
第五部
▽特別功労章
第三副分団長
遠藤昭三
▽功労章
一の一部長長岡利男
一の二〃村山正一
一の三〃菅井栄治
二の五〃鈴木秀一
▽功績章
一の四部長相座照男
一の六〃村山喜平治
二の二〃阿部米男
二の三〃大沼栄悦
二の六〃長岡吉郎
三の一〃堀敏男
三の三〃小林武司
三の五〃堀義三郎
一の一先任班長柴田彰亮
一の五〃森菊夫
二の四〃長岡信一
▽精練章
武田光雄　熊谷良夫　大竹孝男　渡辺吉助　松尾亮蔵　相座孝雄　阿部昌雄　佐藤昭三　小松巌　遠藤貞悦
▽ポンプ管理優良章
第三分団第二部

**日本消防協会長表彰**

▽功績章
第一分団長　鈴木正二
▽精練章
第三分団長　白田総内

**山形県消防協会長表彰**

▽優良消防分団　第二分団
▽優良消防職団員
鈴木修一　木村恵一　相座龍志　長岡俊春　阿部勲　高取俊光　小林昭吉　遠藤秀利　安藤政喜
▽永年勤続表彰
○25年＝団長　渡辺為之助
○20年＝第三分団長白田総内
第三副分団長遠藤昭三　本部付副分団長渡辺金二　二の三先任班長吉田彪　二の六団員長岡清
○15年＝第一副分団長鈴木鉄男　一の一部長長岡利男　二の一〃長岡稔　二の五〃鈴木秀一　二の一班長長岡俊晴　二の五先任班長佐藤喜代志　三の二班長長岡光一　二の三団員佐竹信義　二の六〃佐藤昭一
▽一般協力団体
大暮山自衛消防隊
（川口清治隊長）

**西村山支部長表彰**

▽優良消防部第二分団第六部
▽優良消防職団員
清野和夫　細谷清一　古川征一　阿部円利　志藤信勝　長岡忠典　若月淳一　近衛正雄　岡崎浩一　長岡栄　長岡忠志　小野長左エ門　阿部昭三
▽一般協力団体
婦人消防クラブ立木支部
（阿部かよ支部長）

**町長表彰**

▽優良消防部
一位　第三分団第二部
二位　第二分団第一部
三位　第三分団第一部
▽内助の功労章
本町　渡辺雅子
▽一般協力者
相座正明（送橋）菊地治男（和合）鈴木清一郎（松程）
中村喜一郎（〃）

【表彰された消防功労者】

## ◆自転車は正しい乗り方を

春先は路上での自転車あそびがぐんと増え、それにともなって事故も多発しています。

子どもに自転車を正しく安全に乗らせるには、体に合った大きさの自転車を選んで、正しい基本的な乗車訓練を行うことが大切です。

**乗り方のチェックポイント**

- 正しい姿勢を保つことができ、両足のつま先が地面につくか。
- ブレーキ操作ができ、危険な場合急停止ができるか。
- ブザーやベルを必要に応じて正しく使えるか。
- ふらつかないで、止まったり曲ったりできるか。

## はたちの声

# 成人を迎えて

太郎二　長岡郁子

小雨もようの小学校の入学式や朝日川での水浴び、そしてマラソン大会など、そんな思い出はみんな遠い所に行ってしまったんですね。つい昨日のような高校生活でさえ、卒業してもう二年の月日が経っているのですもの。もう戻れないさみしさをふと感じてしまうこの頃です。

私は、この町と離れて生活すること五年余りになりますが、ホームシックなどという感傷はどこへやら、溢れる若さにまかせては思い起こすこともない毎日をすごしています。それでも休日で家に帰った時などは町報を見るのが楽しみの一つです。美術部の入賞や野球部の活躍などの記事を見たときは、同級生達の活躍がとてもうれしかったですし、また、災害や過疎対策に寄せる地区民ならではの活発な意見等には、心熱くして読ませていただいたものです。

中学校廃校に寄せての文集を手にした時もそうでしたが、そんなとき私は朝日町に生まれこの町の自然に触れて大きくなったんだなあとしみじみ感じ、こはまぎれもない私の故郷なんだと思うのでした。そして今はこの故郷を誇りとし、その発展に何らかの形で協力できるような人間にならなければならないと思っています。

それから、実社会に出ても、何かにつけては他人に頼ることばかり考えていた未熟な私にも最近『先輩』と言って親ってくれる友達がいることに気づき、ただ一緒に遊ぶだけではなく何か応えてやれる人になりたいとも思うようになりました。

最後に、私をここまで育くんでくれた両親の無償の愛に深く感謝し、父亡き後の今、母に早く一人前の大人と言われるようになって、私に与えてくれた幸福の何十分の一でもお返ししたい気持ちでいっぱいです。

# 路傍の神々仏たち ②

## 松程「皆朱沢の追分仏」

水口をすぎると、朝日川橋の脚下に、水晶を浴かしたかと見える清冽な朝日川の流れが、白い泡を吹いて流れています。橋を渡って約一五〇㍍南に進むと、小鳥の囀りの中に水と若葉と太陽の皆朱沢の涼風が、しばしわれを忘れさせてくれます。

皆朱沢と太郎南旧道の三叉路の一角に無言の追分石が立っています。重さはゆうに四〇〇キロ（百貫）を越す花崗岩の面に「南無阿弥陀仏　右左沢　湯殿山江　左大沼江　大井沢江　先祖菩提」と刻まれています。

しかし、残念ながら年号は見つからず、おそらく背面に刻まれているが土砂に埋れたためと思われます。

村の人々は「追分さま」「追分仏」と呼んでおり、十一世紀平安末期より十九世紀江戸時代まで、三山繁昌時代の阿弥陀信仰と道しるべを兼ねた貴重な文化遺産です。

白装束に手甲脚半わらじばき、左手に珠数右手に金剛杖を持った三山巡拝の道者が、この追分仏に道中安全と来世のしあわせを祈ってしばし冥想にふけったことでしょう。

南無とは梵語で仏や菩薩、経文などの上につけて唱える絶対的信頼の語であり、「帰依」「帰命」の意味です。

阿弥陀仏は西方浄土の教主の名であり、一切の衆生を救う仏でこれを念ずれば死後直ちに極楽浄土に生きることができるという、浄土宗、真宗のご本尊です。

今もこの石仏は名もなく淋しく美しく、路傍にたたずみ旅行く人々の交通安全と来世の幸福を守って、無言の中に微笑をなげかけてくれます。

〈長岡幸助広報委員〉

# 情報室

## 求人情報

▷朝日ビニール㈱☎(8)2221　年齢40歳までの女子従業員３名募集。外に４人ていどのグループで、年間通じて外注の仕事（縫製関係）をやれる女子も募集しています。ご希望の方は当社まで。

## 図書館情報

町立図書館には，次のような雑誌もそろえてあります。どしどしご利用下さい。

。文芸春秋。婦人公論。旅。週間朝日。月刊太陽。アサヒカメラ。社会教育。ＮＨＫきょうの料理・婦人百科。暮らしの手帖。自然。シネマスポット。主婦の友など19種

広報あさひ　二五八号　昭和42年5月21日第三種郵便物認可　発行所　山形県朝日町役場　編集　企画課　5月1日　10日発行　一部50円　印刷　浦山三盛堂

## ◎明るくなった庁舎前駐車場

昭和46年に，役場庁舎と開発センターが建設されていらいの懸案だった，庁舎前駐車場の舗装工事がこのほど行われ，明るい駐車場に生まれかわりました。

面積は3,700㎡で，収容台数は前が115台，後が20台の計135台。工事には町職員も協力するなど経費の削減をはかり，総工費486万円で完成したものです。

## 戸籍の窓

### ■出生

53年4月1日～4月30日届出

部落　出生者氏名　父名　続柄
大滝　崎村信二　敏彦　二男
常盤　佐竹裕樹　義則　長男
常盤　阿部英樹　捷一　長男
大谷三　高木　誠　利一　二男
栗木沢　遠藤美香　留雄　長女
雪谷　鈴木美紀子　賢一　長女
西舟渡　若月直毅　秀俊　長男
西町　岡崎正志　正行　長男
松程　阿部亨　喜一郎　二男

### ■死亡

53年4月1日～4月30日届出

部落　死亡者氏名　年齢　世帯主
松程　鈴木　ちゑ　82　英
雪谷　鈴木　ミヨ　60　四郎
太郎一　長岡　菊治　51　鈴江
新宿　安藤　重一　53　おはる
立木　長岡　ます　96　實
太郎一　長岡　惣助　81　啓太郎
立木　渡邊　他人　56　まさの
栗木沢　白田　弘　73　寛夫

### ■婚姻

53年4月1日～4月30日届出

大谷六　志藤　盛男　＝　鈴木　栄子
大谷四　夏草　長沼
阿部　正典　＝　松田　千尋
常盤　助ノ巻
阿部　誠治　＝　布施　節子
宇津野　大江町
渡邊　富男　＝　渡邊富士子
松原　寒河江市
長岡　広　＝　沖津　美子
大谷三　高田
鈴木　孝義　＝　佐竹ふみ子
大谷三　大江町
白田　実　＝　庄司とみ子
八ツ沼　大江町
佐藤　好治　＝　嶋之木菊子

## 町民憲章

働くことに誇りをもちます

☆今月の実践目標

## 善意の籠

### 交通安全のために横断旗入れ贈る

このほど、大谷の第二納税組合（浜田源太会長）と朝日舗装㈱（代表白田重さん）より「交通安全のために役立てて下さい」と、横断旗入れを二基（一基三万円相当）町の交安協会に寄贈されました。（写真）

この横断旗入れは、婦人警官と手をあげた子どもを形どったもので、町では心から感謝しさっそく大谷地内の県道ぞいに設置し役立てています

### 長寿クラブで現金を寄贈

このほど、町の長寿クラブ（佐竹峰松会長）で、先に開かれたワラ民芸品展示会の収益金の一部として四千二百五十円を、町の社会福祉協議会に贈りました。

町では、まごころからの善意に心から感謝しており、有効に使わせていただくことにしています。

また、栗木沢の白田とめよさん（八十歳）からは、高校朝日分校に対して雑きん百五十枚が贈られました。これは「孫がお世話になっているお礼に」とひと冬かかってぬい上げたもので、朝日分校ではあたたかい心のこもった贈りものに、大切に使いたいと感謝しています。